

香取 遺産



▲清水不動尊



▲お堂内の不動尊像



◀岩肌から清水がにじみ出ています

vol.206 **しみずふどうそん**
清水不動尊
佐原1299-2

佐原野球場から南に500mほど行くと、不動明王が彫られた道標と「清水不動尊」の扁額が掲げられた鳥居があります。鳥居をくぐって160m坂道を下っていくと、小さなお堂が静かな谷間に佇んでいます。

お堂内には、岩肌を掘りくぼめて安置された石造りの不動尊が祭られており、法界寺の奥の院とされています。法界寺は天正11(1583)年に僧天誉上人の開基とされる浄土宗の寺院です。お堂に掲げられた墨痕鮮やかな「不動尊」の扁額は、東久世通禧のもので、お堂脇の岩肌から清水が湧き出ており、この湧き水は環境省の「千葉県の代表的な湧水」に記載されているものです。

その来歴をご住職にうかがうと、石橋山の合戦に敗れた源頼朝の家臣、清水某が鎌倉へ向かう途中に、この辺りで鳥が木立の中に降りて行くのが見え、道をそれたどっていくと、この湧き水があったということです。

湧き水を発見した清水某にちなんで「清水不動尊」と呼ばれるようになったとのこと。また、矢傷を負った清水某がこの湧き水で傷を洗い、治癒したことから「矢筈の不動尊」とも呼ばれるようになったということです。江戸時代になると「乳出し不動尊」と呼ばれるようになり、子育てで不動尊として信仰を集めるようになりました。この不動尊の湧き水を飲むと母乳がよくでる。難病が治るとされています。毎月28日の午前中に縁日が開かれています。

夏の暑い日に訪れた時も、清らかな湧き水は冷たく、心まで洗い浄めてくれるようです。